



被害木に緩く巻いたクビアカガードネット④と、未被害木にしっかり巻いた状態（日本ワイドクロス提供）



被害木に緩く巻いたクビアカガードネット④と、未被害木にしっかり巻いた状態（日本ワイドクロス提供）

同製品は長さ50センチで販売し、木に応じて切り分けて使う。幅は0・9センチと1・8センチの2種類。参考価格は0・9センチタイプが1万4400円（税別）、1・8センチタイプが2万8800円（同）。問い合わせは同社、電話0729（71）5144。

目合い0.4ミリ 産卵管も阻む 専用のネット

農業用ネットを製造する日本ワイドクロスは、外来害虫のクビアカツヤカミキリ対策用のネット「クビアカガードネット」を開発した。桃、梅、桜の幹に巻いて、害虫の木への侵入や脱出を予防する。0・4ミリの細かい目合いで、成虫の侵入を阻む。産卵管も阻む。産卵管も阻む。産卵管も阻む。

羽化した成虫は飛散して他の木に卵を産み付け、被害が拡大する。クビアカガードネットは、被害を受けた木に巻き付け成虫の飛散を防ぐ。使用法と、未被害木に巻き付けて侵入を防ぐ二つの使い方がある。これまでも成虫の飛散防止に防風ネットなどを木に巻き付けて対策が取られていたが、4ミリ目合いではかみ切ることがあり、また未被害木に巻いても産卵管が通るためにネットの上から卵を産み付けることがあった。クビアカガードネットは目合いが細かい。被害拡大を予防できる。色は黒でネットの

同社は樹木医の協力の下、効果的な巻き方を提案する。被害を受けた木に対しては木とネットの接地を少なくしてフラス（木くず・ふん）の堆積を予防し、成虫の捕殺を容易にする。未被害木に対しては、木とネットの間に隙間が出ないように巻き、害虫の侵入を防ぐ。

薬剤併用で効果アップ 日本ワイドクロス

同社は樹木医の協力の下、効果的な巻き方を提案する。被害を受けた木に対しては木とネットの接地を少なくしてフラス（木くず・ふん）の堆積を予防し、成虫の捕殺を容易にする。未被害木に対しては、木とネットの間に隙間が出ないように巻き、害虫の侵入を防ぐ。

クビアカツヤカミキリ防除 定期巡視や補助金

都府県で
対策進む

桃や桜の木を食害する特定外来生物、クビアカツヤカミキリの発生が広がり、各地で対策が進んでいる。大阪府は防除推進計画を策定。市町村単位でも栃木県足利市で防除計画を作った他、群馬県館林市では撲滅プロジェクトを進めている。

環境省によると、クビアカツヤカミキリを確認したのは茨城、栃木、群馬、埼玉、東京、愛知、三重、大阪、奈良、和歌山、徳島の11都府県となっている。クビアカツヤカミキリの幼虫は木の中で成長するため、発見が難しい。幼虫のふんと木くずが混ざったフラスが目印で、穴に針金を挿したり、薬剤をかん注したりして防除する。

大阪府 防除推進計画で、市町村や農業者、府民などそれぞれ役割を明記。継続的に発信して、取り組みを進める考え。防除対策は地域別、施設など別、樹木の被害状況別に取り組みの考え方や具体策を示している。徹底対策の必要がある。「被害発生地域」では、庁内関係部局の連携体制構築、定期的巡視、などだ。「被害発生地隣接市町」「被害未発生地域」での対策、公園などや農地に

だ。府内では2017年に初確認、43市町村のうち11市町村に広がった。計画では生活環境や農業、生態系への被害軽減と分布域の拡大防止を目標に、府内での被害根絶に努めるとした。全域を防除推進区域とし、当面は被害発生市町村と隣接市町が中心。期間は3年間。2月に策定した。防除対策は地域別、施設など別、樹木の被害状況別に取り組みの考え方や具体策を示している。徹底対策の必要がある。「被害発生地域」では、庁内関係部局の連携体制構築、定期的巡視、などだ。「被害発生地隣接市町」「被害未発生地域」での対策、公園などや農地に

ついてもまとめている。府は「被害のまん延防止、特定外来生物の侵入を水際で阻止する。連携して効果的に防除する必要がある」とし、市町村に促し、継続的に発信していく考え。併せて府民向けには特徴や生態、対処方法を載せたリーフレットとの2本立てで普及啓発する。

栃木県足利市 2020年度から5年間の防除計画を策定した。24年度の被害本数を、19年度の3分の1以下の100本まで抑えるのが目標。発見のために市民が参加する「クビアカみつけ隊」の人数を2倍の200人まで増やす。対策で被害樹を伐採する場合、運搬や切断、チップ化費用の3分の2以内（上限20万円）を補助すると決めた。早期発見に向け、一定数の桜が植えられている場所を監視ポイントに設定し、5月上旬と10月下旬に3回ほど巡回する。

群馬県館林市

昨年度に取り続き今年度も、撲滅プロジェクトを始めた。捕殺したクビアカツヤカミキリを持ち込むと、1匹当たり50円、または飲料水を贈る他、登録薬剤と防虫ネットを配布する。昨年度は6648匹の持ち込みと、被害樹木186本分の防除用品の配布があった。今年度から新たに被害樹木への樹幹注入剤による処理も行う。